

## 【ステップ1:火山の情報】

## 説明

 ふんかけいほう  
 噴火警報とは

気象庁は、人の命にかかわるような噴火がおきそうな時や、おきた時は、すぐに噴火警報を<sup>ふんかけいほう</sup>発表します。噴火警報には、どこでどんな<sup>きけん</sup>危険があるのかを<sup>しめ</sup>示してあります。

市町村では、噴火警報をもとに、山に入ることを禁止するなど、登山者<sup>とざんしゃ</sup>や火山のまわりに住む人たちが被害<sup>ひがい</sup>にあわな<sup>ひなん</sup>いよう準備します。場合によっては、すぐに避難をよびかけることもあります。



噴火警報で対象としている現象は、発生から短時間で火口周辺や居住地域に到達し、避難までの時間的猶予がほとんどない大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流。各火山の噴火警報の発表状況は、気象庁ホームページで確認。

## コラム

## 噴火の予知はできるのでしょうか

前もって火山がいつ噴火するかどうかを知る(予知)のは大変<sup>むずか</sup>難しく、いつ、どこで噴火するかなど、わからないことが多いです。ただし、昔から<sup>く</sup>繰り返しかえして噴火している火山では、噴火の前ふれかもしれない観測データが<sup>あらわ</sup>現れることがあります。気象庁ではいろいろな観測機器<sup>かんそくきき</sup>を使って、毎日24時間休むことなく火山を<sup>かんし</sup>監視しています。

日本には活火山は110火山あるが、近代的な観測体制が整ってからの噴火の経験はわずかで、多くの火山は噴火しておらず観測データの蓄積に乏しい。何度も噴火している火山でも、必ずしも以前の噴火どおりに噴火するとは限らない。

## 【ステップ1:火山の情報】

## 説明

 ふんかそくほう  
 噴火速報とは

もし火山が噴火した場合、気象庁はそれをいち早く伝えるため、<sup>ふんかそくほう</sup>噴火速報を発表します。

<sup>ふんかそくほう</sup>噴火速報はテレビやラジオ、スマートフォンなどで知ることができます。

火山の噴火に気がついた時や<sup>ふんかそくほう</sup>噴火速報が発表された時は一刻も早く、<sup>いっこく</sup>下山する、<sup>ひなんごや</sup>避難小屋や、シェルターに逃げる、<sup>いわかげ</sup>近くの岩陰にかくれるなどしてください。

**噴火速報は、登山者など火山のすぐ近くにいる人のための情報。火山が噴火していることを端的にいち早く伝え、直ちに身を守る行動をとってもらうことを目的にしている**

<sup>ふんかそくほう</sup>噴火速報などの情報を待っていては間にあわない場合があります。もし火山で<sup>じな</sup>地鳴りや<sup>けむり</sup>煙などの<sup>いじょう</sup>異常に気がついたら、<sup>いっしょ</sup>一緒に行っている大人の人に聞いてすぐに<sup>ひなん</sup>避難し、地元の役場や警察などに連絡しましょう。



<sup>けむり</sup>煙が見える（<sup>ふんえん</sup>噴煙）



<sup>じな</sup>地鳴りが聞こえる（<sup>めいどう</sup>地下からの鳴動）



<sup>にお</sup>臭いがする（火山ガス）

噴火速報は、スマートフォンなどで入手できるが、場所によっては電波が届かなかったりすることもある。いったん噴火したらたいへん危険な状態に陥るので、異常な状況に気がついたら、すぐに避難することが大切。



## 【ステップ2: 噴火にそなえる】

## 説明

ふだんの<sup>そな</sup>備え

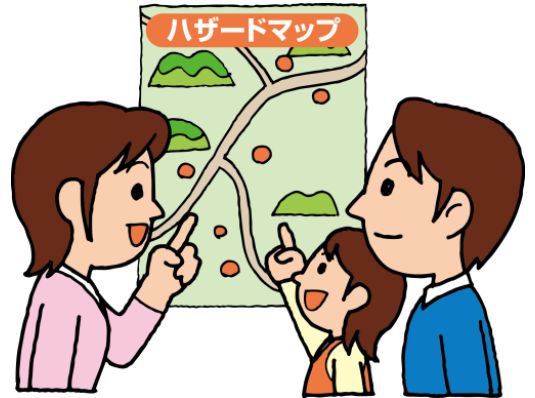
火山<sup>さいがい</sup>災害にはいろいろな種類があり、私たちが住んでいる町にまで影<sup>えいきょう</sup>響があるかもしれないものもあります。火口から<sup>かこう</sup>離<sup>はな</sup>れているからといって安全とはかぎらないのです。

いざという時に<sup>ひなん</sup>避難するためには、火山のまわりのどこが危<sup>き</sup>険<sup>けん</sup>なのかをふだんから知っておく必要があります。

一例として融雪型火山泥流は、自動車並みのスピードで谷筋を一気に流下し、広範囲の建物や道路、農地などを襲うことがある。

## ✓ 火山ハザードマップ

火山が噴火した時に、どの地域まで、どんな危<sup>きけん</sup>険がおよぶかを表した地図です。火山のどこが危<sup>きけん</sup>険なのかは、火山ハザードマップで確認します。市町村のホームページなどで入手できます。



「火山防災マップ」と呼ばれている場合もあり、避難に役立つ情報が記載されていることがあるので授業で紹介できればさらによい。

✓ 避難時の<sup>ひなんじ</sup>持ち物を<sup>じゅんび</sup>準備

頭をまもるヘルメットや、火山灰<sup>かざんばい</sup>をふせぐためのマスクやゴーグル、<sup>かさ</sup>傘<sup>じゅんび</sup>などを準備しておきましょう。座<sup>ざ</sup>布<sup>ぶ</sup>団<sup>とん</sup>や、タオルもかわりになります。



小さな噴石も飛んでくる状況では、頭を保護することが大切。火山灰は風向きにより遠距離まで届くことがある。

## 【ステップ2:噴火にそなえる】

## 説明

火山に行く時の<sup>そな</sup>え

火山の噴火から身をまもるために一番大切なことは、噴火がおきる前に安全な場所に避難することですが、ふだんはおとなしい火山でも、前ぶれもなくいきなり噴火することもあります。

噴火がおきるまえの避難が第一だが、火山に絶対の安全はないので、準備しておく。

 ✓ 火山の<sup>じょうきょう</sup>状況を確かめておく

火山の<sup>じょうきょう</sup>状況について、最新の情報を確かめてから行きましよう。火山の情報は、テレビやラジオ、気象庁ホームページの「<sup>かざん とざん しゃむ</sup>火山登山者向けの<sup>じょうほうていきょう</sup>情報提供ページ」から手に入れることができます。

火山登山者向けの情報提供ページは[こちら](#)



テレビ

ラジオ

スマートフォン  
タブレット型端末

パソコン

## ✓ もし噴火したときにどうするか確かめておく

<sup>ひなん ごや</sup>避難小屋や<sup>ひなん</sup>避難ルート、噴火がおきた時にどうするか

(シェルターや大きな岩の<sup>かげ</sup>陰にかくれる)を確認しておきましょう。

また、<sup>ふんかそくほう</sup>噴火速報をすぐに入手できるように、スマートフォン、

ラジオやそれらの<sup>よび でんち</sup>予備電池を持っていきましょう。

噴火したら一刻も早い避難が必要。事前に準備しておけば、それだけ早く、より正しい避難行動がとれる。

1

## ふだんの<sup>そな</sup>備え

火山の近いところは、ふだんからどのようなことを<sup>じゅんび</sup>準備しておけばいいでしょうか。①～③から選んでください。

- ① 火口に近づかなければ危険はないので特に<sup>そな</sup>備えることはない
- ② 火山に<sup>いじょう</sup>異常がなくても、なるべく家から出ない
- ③ **ハザードマップ**を参考に、<sup>きけん</sup>危険な場所を確かめておく

過度に火山を恐れる必要はないが、火山泥流などでかなり遠くまで重大な災害のおきることもあるので、自分の住んでいる町がどういうところなのか確かめておくことが必要。



避難する時に必要なものをそろえておくことも必要です。

2

## 火山に行くときの<sup>そな</sup>備え

明日は火山に登山の予定です。どんなことを<sup>じゅんび</sup>準備すればよいですか。

- ① 気象庁のホームページで（ **火山の情報** ）を確認める。
- ② もし噴火した時にどうやって（ **避難するか** ）を確認する。
- ③ （ **ラジオやスマートフォン** ）などを用意する。

火山の噴火のほか、山岳には、荒天など様々なリスクがある。情報収集して、ときには「行かない」勇気をもつことも必要なことである。



一緒にいく大人の人と相談して、行ってもよいかどうか決めましょう。



3

 ふんかけいほう  
 噴火警報

ふんかけいほう  
 噴火警報が発表されると、私たちにはどんな影響えいきょうが出る  
 でしょうか。間違まちがっているものを①～③から選んでください。

- ① 住んでいるところから必ず避難ひなんする必要がある
- ② 登山ができなくなることがある
- ③ 通れない道路がでてくる



ふんかけいほう  
 噴火警報が出たからといって、すぐに火山のまわり  
 すべてが危険きけんということではありません。避難ひなんが必  
 要な範囲はんいをよく確かめましょう。

4

 ふんかそくほう  
 噴火速報

ふんかそくほう  
 火山で噴火速報を聞いたなら、どのように行動すればいい  
 でしょうか。①～③から選んでください。

- ① これから山に登るなら、火口に遠いのでまだ登れる
- ② 大人の人に聞いて、すぐに下山したり、大きな岩の陰かげにかくれる
- ③ 内容をよく確かめるため、30分はその場にとどまる



きけん しょうたい  
 噴火してしまったら、とても危険な状態です。  
 たとえば噴石ふんせきは猛スピードもうですぐに降ってきます。

## 5 まとめ

火山はひとたび噴火<sup>ふんか</sup>すると、おそろしい被害<sup>ひがい</sup>をおよぼすことがあります。そして噴火<sup>ふんか</sup>を止めることはできません。  
もし噴火<sup>ふんか</sup>がおこった時のためにふだんから準備<sup>じゅんび</sup>をして、いざという時は、すぐに避難<sup>ひなん</sup>することが大切です。

- ✓ 火山ハザードマップを見て、自分の住んでいるところにどんな危険<sup>きけん</sup>があるのか確かめましょう
- ✓ 避難<sup>ひなん</sup>するときのために必要なものを準備<sup>じゅんび</sup>しましょう
- ✓ 情報を集めて、いま火山がどんな状態<sup>じょうたい</sup>なのかを知っておきましょう
- ✓ いざという時、どう避難<sup>ひなん</sup>したらいいか考えておきましょう



なにごとにも準備<sup>じゅんび</sup>が大切です。

「ぼるけん」

桜島で有名な鹿児島地方気象台のマスコットキャラクターです。